

家のお手入れ

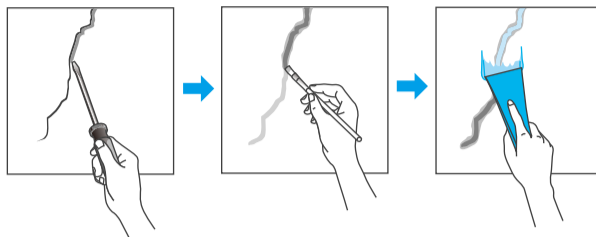


しっくい、プラスター壁の補修

しっくいやプラスターのヒビ割れや穴、すき間の補修には室内用の壁補修パテを使います。パテには、パテ状のまま使えるものと、水で練ってから使用するタイプがあります。どちらを使う場合も、あらかじめ、補修する壁面に塗れ雑巾を当てるなどして水分を含ませておく、パテの食いつきがよくなり、パテだけはがれることがなくなります。

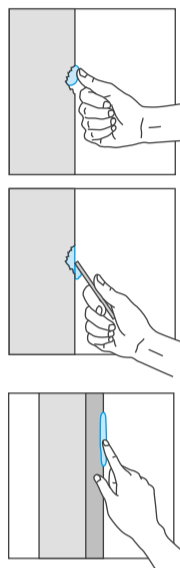
ヒビ割れ

ヒビ割れが小さな場合、そのままではパテが入らないので、マイナスドライバーなどでヒビ割れを広げながら、ハケか筆でヒビ割れ部分を濡らした後、壁用パテをヘラで埋め込む。パテが乾いたら、当て木をしたサンドペーパーで表面を平らに仕上げます。



穴

穴の大きさにもよりますが、1度で埋めると、パテが乾くときに縮んでではがれやすくなるので注意。まず、穴の内側にパテを押しつけて乾くのを待ち、次に穴の表面までパテを埋め、最後に木のヘラで押しつけるようにして表面を平らにする、といったように2〜3回に分けて埋めるとよい。ただし、最近は、乾燥しても縮まないタイプのパテも販売されている。それを使う場合は、1回で埋めても問題ない。パテを埋めた後、表面の凹凸が目立つようなら、サンドペーパー（240〜320番）に当て木をして仕上げる。



柱とのすき間

チューブ入りのアクリル系充てん剤を使うと便利。すき間にチューブで直接、充てん剤を注入した後、指に水をつけてならすときれいに仕上がる。

壁の場合、一部分を補修しても残念ながら、まったく元通りというわけにはいきません。その場合は、思い切って壁全面をリフォームしましょう。しっくいやプラスター壁の場合は、そのまま壁紙を貼ったり、塗装することが可能ですし、繊維壁や京壁もそれぞれの壁材で塗り直したり、下塗り剤で固めてから塗装したり、壁紙を貼ることができます。

壁の補修

One Point Advice

柱や鴨居のクギ穴の補修

つまようじを使って簡単に目立たなくさせることができます。穴が大きな場合は、つまようじの代わりに割り箸を削ったものを使うのも手。また、木工用パテで埋めることもできます。

クギ穴につまようじを刺し、カナヅチで軽く叩いて奥まで入れてから、余分をカッターで切り取る。穴が大きくすき間がある場合は、さらに数本のつまようじを同様にたたき込む。

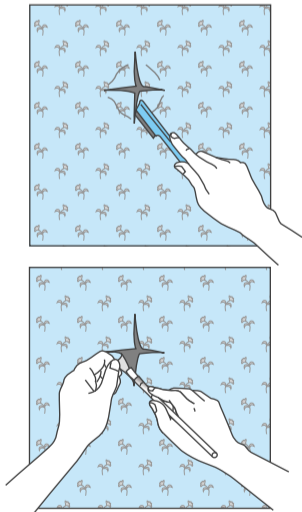


柱の色が濃い場合は、その色に合わせてクレヨンや水彩絵の具などで着色すると目立たなくなる。

壁紙の補修

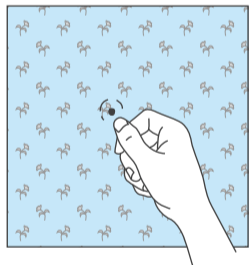
中に空気が入ってふくれた場合

壁紙補修用の接着剤を少量の水で薄め、注射器を使ってふくらみに注入して貼る方法もあるが、注射器が手に入らない場合は、カッター（できれば刃の薄いカミソリ）で、十字に切れ目を入れ、裏に壁紙補修用接着剤を塗って貼り直すといよい。



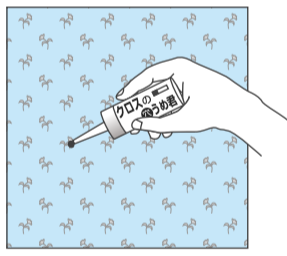
ネジやピンであいた穴

穴や周囲の汚れを落とし、穴の周囲の盛り上がりがある部分を穴の中心に向かって爪で押しつけるようにして平らに戻す。

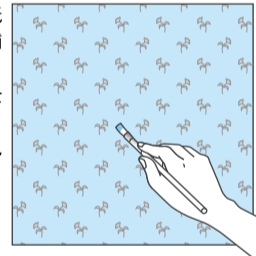


2

壁紙の小さな穴専用の補修剤のノズルの先を穴に当てて注入する。色は、白、アイボリー、ベージュの3色があるので、壁紙の色に合わせて選ぶとよい。

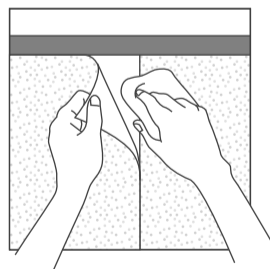


色や柄のある壁紙の場合は、白の補修剤を使うのがコツ。注入して完全に固まってから、水彩絵の具を調色して細い筆で色をつける目立たなくなる。



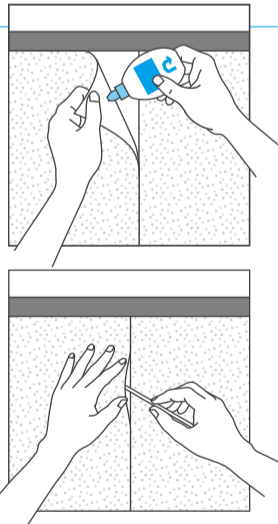
壁紙のめくれ、はがれ

はがれた壁紙や壁に残っている古い接着剤や汚れを布などできれいに拭き取る。



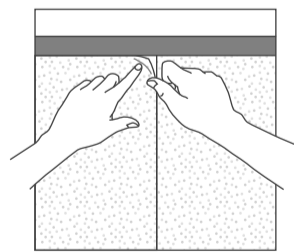
2

壁紙が乾いてから、壁紙補修用の接着剤をめくれた壁紙の裏面に薄く、均一に塗る。このとき、めくれの大きさや状況に応じて、お菓子についているヘラやスプーン、つまようじ、ハケなどを使うと端までしっかり塗ることができる。



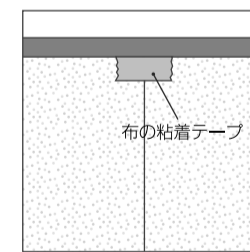
3

接着剤を塗ったらすぐに、はがれていない方から端に向かって、接着剤や空気を追い出すように貼り合わせる。このとき、接着剤がはみだしたらすぐに固く絞った布で拭き取る。



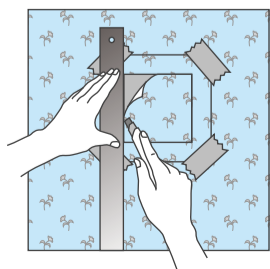
4

めくれグセがついている場合は、接着剤が密着するまで、布の粘着テープで仮止めを。テープをはがすときには、めくれグセがついている方向とは逆の方向にはがすのがポイント。

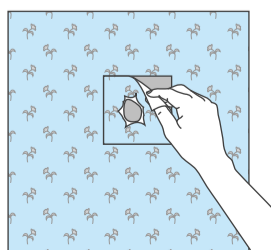


大きな破れ

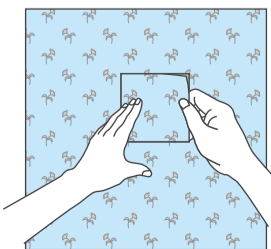
1 同じ壁紙を用意して、破れより大きく切り、柄を合わせて布粘着テープなどで仮止めをしてから、定規を当てカッターで2枚いっしょに切る。



2 テープをはがして当てた壁紙を取り、破れた壁紙をはがす。このとき、カッターの先などで端をこじおこしてからめくるとうまくいく。壁面に古い接着剤が残っている場合は固く絞った布などで拭き取っておく。



3 新しい壁紙の裏に壁紙補修用の接着剤を塗って貼りつける。その後、壁紙用の押しえローラーで継ぎ目を押さえておくと目立たなくなる。



※同じ壁紙がない場合、また年月がたって色が変わってしまった場合は、貼ってある壁紙に合う別の壁紙を選んで補修することも可能。この場合は、破れた箇所以外にも同じ方法でデザイン貼りをするときれいに仕上がります。また、ビニール壁紙なら凹凸が似ている壁紙で貼り直したあと、ビニール壁紙にも塗れる塗料で全体を塗り直す方法もあります。小さな破れなら、ボーダー壁紙などを使ってカバーしてもよいでしょう。

和室の壁の補修

壁がボロボロ落ちる場合

和室に使われている繊維壁や京壁などは、古くなると接着力が弱まり、触っただけでボロボロ落ちることがあります。そんな場合は、壁用の粉落ち防止剤をスプレーして、糊を補強してやるとよいでしょう。壁から30cmくらい離して、ゆっくり動かしながら壁全体にスプレーするのがコツ。ただし、京壁（じゅらく壁）の場合は、スプレーした箇所が濡れたような色になってムラになるので、あまりおすすめできません。

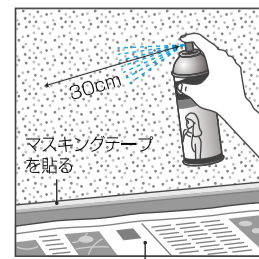
キズや穴の補修

●京壁（じゅらく壁）の場合

室内用壁パテで補修を。表面が半乾きのときに、タオルやブラシなどで凹凸をつけ、乾いてから水彩絵の具で色合わせをする。

●繊維壁（綿壁）の場合

色の近い壁材を選び、水を加えて練ってから補修する。



新聞紙などを敷く